

「日本語教育の参照枠」に関する調査研究協力者会議における調査（案）

「日本語教育の参照枠」に関する調査研究協力者会議での CEFR 例示的能力記述文の量的検証について（試案）

1. 目的

現行の CEFR 例示的能力記述文を日本語教育において参照する上での課題や留意点を調査し、今後の領域別の能力記述文の開発や改善等の基礎資料とする。

2. 予算

5,000 千円（調査委託費として）

3. 検証手法

- (1) 先行研究 : North (2000), 野口科研 (2019) (2020), 国際交流基金報告書 (2020)
- (2) データ収集地域 : 国内（外国人集住地域/散在地域）
- (3) 調査対象 : ・在留資格別（留学, 就労, 定住, 技能実習, 特定技能, 家族など, 児童生徒を除く）の比率を基にデータを収集する。
・技能実習及び特定技能については, 職種にも配慮してデータを収集する。
・漢字圏, 非漢字圏の学習者の配分にも配慮する。
- (4) データ数 : 合計 1,125 名（3つのレベルを含む4つのグループ
・各グループのレベルごとの内訳

	A1	A2	B1	B2	C1	C2	計
グループ 1	200	100	100				400
グループ 2		100	100	100			300
グループ 3			50	100	75		225
グループ 4				50	75	75	200

*A1, A2 レベルは 200 名を確保。

*B1, B2 レベルは 250 名確保 (B1 が threshold であることに配慮してデータ数を増やす)。

*C1, C2 レベルは調査対象者の確保の困難さとパラメタ推定精度のバランスを考えてデータ数を増やす。

*本調査の前に予備調査を実施する。

- (5) データ収集方法 : ネットアンケート方式（グーグルフォーム等）

- (6) 調査手法 : 学習者評価（教師評価は一部実施）
- ・大学, 日本語学校, 自治体等に協力依頼。
 - ・検証する例示的能力記述文の数 100（先行研究を基に選択, 5つの言語活動に関する例示的能力記述文を含む）。

・ 1 言語活動あたりの例示的能力記述文の配置の例

	A1	A2	B1	B2	C1	C2	計
グループ 1	7	7	6				20
グループ 2		7	7	6			20
グループ 3			7	7	6		20
グループ 4				7	7	6	20

* 5 言語活動に渡っての調査を行うので、例示的能力記述文の数は合計 100 となる。

* 各グループで同じレベルの例示的能力記述文には、アンカー項目として共通のものが含まれる。

* カテゴリについてもバランスよく配分する。

* 先行研究で活用できる調査用紙等のフォーマットがあれば許可を得た上で利用。

* 調査票は 14 言語に翻訳。

4. スケジュール

8-9 月 学習者評価データ収集

10-12 月 データ分析

1-2 月 報告書とりまとめ

以 上

「日本語教育の参照枠」に関する調査研究協力者会議におけるA2及びB1の基礎漢字（案）
策定のための基礎調査（試案）

1. 目的

「日本語教育の参照枠」におけるA2及びB1の基礎漢字（案）策定のための基礎調査

2. 予算

2,000 千円（調査委託費として）

3. 調査内容

① 先行研究調査

- ア 欧州を中心とした大学、中等教育機関等における CEFR の尺度に基づいた漢字の扱いに関する先行研究及び報告書等について調査する。
- イ 「生活者としての外国人」を対象とした、地域の日本語教室における漢字指導に関する先行研究について調査する。

② 教科書調査

- ア 市販されている初級・初中級段階の教科書（概ねB1まで、30冊程度）で扱われている漢字語及び漢字を抽出し、教科書間の重なりを調査する。レベルについては概ねN4までをA2とし、初中級をB1とする。
- イ 市販されている漢字指導を目的とした教科書（概ねB1レベルまで、30冊程度）で扱われている漢字語及び漢字を抽出し、それらの重なりを調査する。
- ウ ア、イに関して、提示されている漢字語及び漢字について、書く指導が行われているものと、読めればよいものについて整理されている場合は、その扱いについても調査する。

③ 補助教材等の調査（学習アプリ等を含む）

- ア 文化庁日本語教育コンテンツシステム（NEWS）に掲載されている漢字を扱った教材（概ねB1レベルまで、30冊程度）で扱われている漢字語及び漢字を抽出し、それらの重なりを調査する。
- イ 学習アプリ等としてインターネット上で公開されている漢字学習リソース（概ねB1レベルまで、30例程度）で扱われている漢字語及び漢字を抽出し、教材間の重なりを調査する。
- ウ ア、イに関して、提示されている漢字語及び漢字について、書く指導が行われているものと、読めればよいものについて整理されている場合は、その扱いについても調査する。

④ 関係機関へのヒアリング

- ア 地域の日本語教室を対象として、漢字の指導について先進的な取組を行っている機関に対しヒアリング調査を実施する（3件程度）。

⑤ 検証

- ア 調査において得られた漢字語が実際の教育現場において、利用できるものかどうかを教師と学習者の協力を得て検証する。

4. スケジュール

8-11月 ①-④調査

12-1月 調査データのとりまとめ、A2及びB1の基礎漢字（案）の策定

2月 報告書とりまとめ

以上